

【講座名】	講座Ⅲ「それぞれの学びの場での教科指導における実践報告」①
【講師】	<p style="text-align: center;">県立日南くろしお支援学校 教諭 鈴木 剛</p> <p style="text-align: center;">延岡市立北方学園 教諭 若松 志帆</p> <p style="text-align: center;">宮崎大学教育学部附属中学校 教諭 水谷 泰</p>
<p>1 実践報告内容</p> <p>「将来の生活管理に結びつくための数学の学習」 県立日南くろしお支援学校 教諭 鈴木 剛</p> <p>(1) 特別支援学校と市町村立小中学校における数学・算数の違い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学校では、教科として位置づけられているが、特別支援学校では、児童・生徒の実態に応じて教師が組み立てる。</li> </ul> <p>(2) 合理的配慮と特別支援学校の数学</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「不都合なことを改善、克服するための児童・生徒の実態に合わせた学習内容を組み立てる」ということで、学習すること自体が「合理的配慮」につながっている。</li> </ul> <p>(3) 数学の授業形態</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・45分で「3つの課題」を行う。【ねらい】：1時間で3回の達成感</li> </ul> <p>2 実践報告</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 昨年度の個別の指導計画より <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活単元学習の評価については、数学的な内容に目を向ける。(お金の払い方、時間)</li> <li>・数学の評価については、アナログ時計で時間は読めるが、何分後の時間を答えることは難しい。</li> <li>・引き継ぎ事項としては、親を頼りにしすぎているので、自分で行動する機会の確保と経験が必要</li> </ul> </li> <li>○ 学習内容 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校でも家庭でも取り組める、時間の意識を高められそうな「時間」の学習。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭での学習プリント。</li> <li>・数学(学校)での学習プリント。</li> </ul> </li> <li>・学習における仮説。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・時間管理の向上と数学における向上。</li> </ul> </li> <li>・評価と指導の方法の実際。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・実態を知る</li> <li>・家を出る時間の目標を立てる。</li> <li>・問題点を把握する。</li> <li>・できたことを賞賛する。</li> <li>・次の目標を教師と話し合いながら決める。</li> </ul> </li> <li>・評価と指導の結果 <ul style="list-style-type: none"> <li>・6時に起床する日が増えた。</li> <li>・歩いて駅に行く日が増えた。</li> <li>・何時何分に家を出ればよいかを教師と考え、実践するようになった。</li> </ul> </li> <li>・所要時間を求める。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・教材の時計を何度も作り直し、その子に合ったものにする。</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>	

○ まとめと課題

- ・「家庭の学習」プリントを工夫することで、改善の余地はある。
- ・教材を一般的なものに変えていきたい。

○ 最後に

- ・教科学習で使用するプリントは、できれば、自分で手作りした方がよいでしょう。
- ・宿題は、面倒くさがらずに出した方がよいでしょう。

3 感想

個別の指導計画を活用し、実態把握を行い、将来を見据えながら、現在の生活課題に目を向けて、児童・生徒の学習内容を考えていくことの大切さを感じるとともに、学習の積み重ねで身につけた技能を実生活に活かすことで、児童・生徒の更なる成長にもつながるのではないかと感じた。

講座  
の  
様子

